



Title	難治性根尖性歯周炎に対する高周波電流の有効性に関する後ろ向き観察研究 [全文の要約]
Author(s)	多田, 瑛一朗
Citation	北海道大学. 博士(歯学) 甲第15008号
Issue Date	2022-03-24
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/85910
Type	theses (doctoral - abstract of entire text)
Note	この博士論文全文の閲覧方法については、以下のサイトをご参照ください。
Note(URL)	https://www.lib.hokudai.ac.jp/dissertations/copy-guides/
File Information	Eiichiro_Tada_summary.pdf



[Instructions for use](#)

学位論文内容の要約

根尖性歯周炎の原因として、根管系への種々の細菌や、感染歯質などが報告されており、その治癒には感染源の徹底的な除去が不可欠である。しかし、従来の機械的根管拡大形成と化学的消毒を行い、根管内に汚染が認められないにも関わらず、炎症が消失しない症例（以下、難治症例）や、根尖病変があるにも関わらず、根尖孔までファイルが到達不可能な症例（以下、穿通不可症例）がある。本研究は、難治症例や穿通不可症例に対して、高周波電流の通電（以下、HFC: High-frequency conduction）を行い、その有効性と治癒に影響を及ぼす因子について評価した。

2010年1月1日から2021年8月31日の間に、北海道大学病院および医療法人とみなが歯科医院にて、根尖性歯周炎と診断され、化学的機械的根管清掃を行った患者を対象とした。調査項目は、難治症例が27項目、穿通不可症例が24項目であった。治療成績の評価は、マイクロスコープ下での炎症の有無を確認し、periapical indexによる5段階評価と臨床症状により、成功もしくは失敗と評価した。

難治症例のHFC群の累積成功率は1年6カ月後において、66.7%であり、対照群では4.3%であった。穿通不可症例のHFC群の累積成功率は2年後において65.8%であり、対照群では2.3%であった。難治症例、穿通不可症例共に、HFC群は対照群と比較して、累積成功率が有意に ($p < 0.001$) 高かった。また、傾向スコア・マッチング後のHFC群と対照群における成功率をLogistic回帰分析により比較した結果、HFC群が対照群と比較して、難治症例はオッズ比が39.00 (95%信頼区間: 4.18-364.00, $p < 0.01$)、穿通不可症例はオッズ比が66.50 (95%信頼区間: 8.15-542.00, $p < 0.001$) であった。

以上より、従来の化学的機械的根管治療では炎症が改善しない難治症例や、根尖部骨欠損があるが根尖孔への穿通が不可能な穿通不可症例に対してHFCを行うことは、きわめて高い効果を有することが明らかとなった。またHFCによる有害事象は一例もなかった。

難治性根尖性歯周炎に対する
高周波電流の有効性に関する後ろ向き観察研究

博士の専攻分野名称 博士（歯学） 氏名 多田 瑛一郎